

12 つくる責任
つかう責任



2023年度より 「リユース&リサイクルプログラム」を開始

CSRの取り組みにて、バイオデータバンクは廃棄物を制限し、循環経済を促進するために、リユースまたはリサイクルし、持続可能な社会の実現に貢献します。

製品スペック

- ・サイズ (幅)27mm, (高さ)13mm, (奥行)43mm
- ・重量 20g
- ・素材 (筐体)ABS, (ベルト部分)66ナイロン
- ・防塵・防水性能 IP67
- ・耐熱性能 ~80℃
- ・振動・衝撃耐性 JISB7001
- ・アラーム音量 74dB
- ・日本製
- ・ベルト部分付け外し可能

- *本製品は医療機器ではありません。
- *本製品は深部体温の上昇を検知お知らせします。
- *暑い環境下で起こりうる全ての体調不良に対応しているものではありません。
- *医師に熱中症と診断される場合でも、合併症や他の理由によりアラームが作動しない可能性があります。
- *アラーム作動の有無に関わらず体調の変化を感じた場合は休憩や給水を行い、それでも改善の無い場合は医療機関にご相談ください。
- *本製品には時計機能はございません。
- *アラーム音量は測定方法によって異なる場合がございます。
- *本製品で実施した防水性能試験は深さ1m・30分間の浸水試験です。
- *本製品の着用時は本体裏面の銀色のセンサー部分を肌に密着させてください。

開発・製造元

Biodata bank

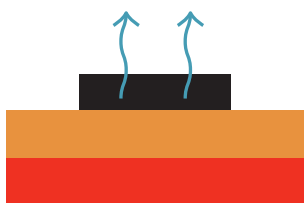
Biodata Bank株式会社
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町29番17-302号
TEL: 03-6416-4924
https://biodatabank.co.jp/ja/
本社:東京 支社:パリ 研究拠点:大阪

Biodata Bank株式会社は2018年に創業し、世界初の非侵襲の深部体温推定技術を開発しました。これまでは体調が悪い時に測定していた体温データ、点でのデータ取得ではなく連続的に取得することで新たな価値を創出することができます。Biodata Bankは他産業で取得できるデータも活用し、様々な課題解決を通してより豊かな生活を実現します。

深部体温を推定する技術

- ・表面温度センサー
- ・身体の熱の出入を
測定するセンサーの
組み合わせで
深部体温を推定

特許
取得済み



深部体温のポテンシャル



導入後の熱中症
発生件数
ゼロ報告多数

カナリアを着用して
熱中症対策への意識が
向上したという声

92% (当社調べ)



製品・サービスに関する
詳細な資料はこちら



熱中症予防ウェアラブルデバイス

熱中対策ウォッチ カナリア®

01 簡単操作

電源ボタンを押し、手首に着用するだけでそのままご使用いただけます。



02 耐久性

防塵・防水性能は安心のIP67、夏の過酷な労働を想定した設計です。

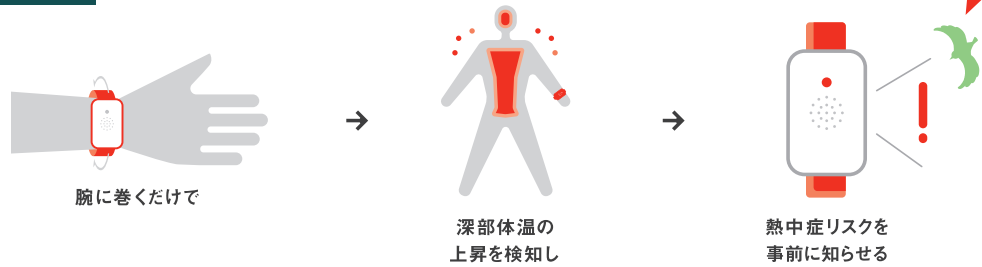


03 管理不要

ワンシーズン使い切りのため充電ゼロ。また、Wi-FiやBluetoothなど、通信接続は必要ありません。



使い方



アラームが鳴ったら



実績

熱中対策ウォッチカナリア®は、2022年にはNHK「クローズアップ現代 ~その“誤解”が危ない!“熱中症”対策最前線」でも紹介されるなど、熱中症未然防止の“保険”となる画期的な商品として日本はもとより欧州を中心に安全対策を徹底されたい多くの建設土木、メーカー、電力会社等にて幅広くご採用いただいています。

* 中央労働災害防止協会採用製品、スーパーゼネコン推薦商品。

累計販売台数 **40万台**
(販売4年目)

導入企業数 **2,000社**

環境省



<2019>
環境省と共同で実証実験
<2020>
環境省、埼玉県、日本工業大学と共同で実証実験

国土交通省



<2021>
国土交通省NETISを取得し、土木工事の入札案件時、当製品の導入が加算対象に

経済産業省



<2021>
経済産業省より健康経営の取り組みとして、当製品を用いた事例を紹介される

厚生労働省



<2022>
厚生労働省より職場における導入しやすい熱中症対策事例として紹介される

2023年度よりデータ分析サービスを開始

産業医監修 データ分析サービス

見えるんです™

使用後に製品を回収し、**貴社専用レポート**を提出

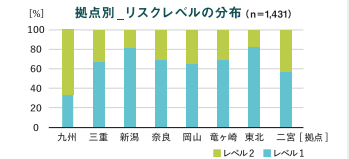
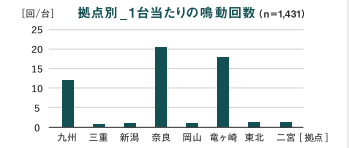


作業者の熱中症リスクを職種(工種)、拠点ごとに分析

熱中症リスクの高い人がわかる

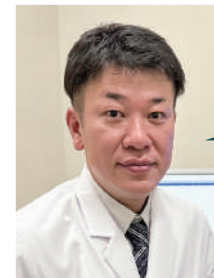


次年度の熱中症対策検討に使える分析レポートを提出



熱中症リスクの見える化を当たり前の世の中に

熱中症は個人差もあるため、WBGTのみの管理では限界があり、個人のリスクを見える化し適切に対応するのは、熱中症対策を検討する上でかかせません。一方で多くの労働者に毎年高価な装置を配布するのも難しく、その点、本製品は効果・効率を考慮すると非常に有用であると考えます。多くの産業で導入され、熱中症リスクの見える化を当たり前の世の中にしていきたいです。



産業医 田中 完 医師

日本製鉄株式会社産業医を経て、AGC株式会社鹿島工場産業医・健康管理センター所長、神栖産業医トレーニングセンター・統括指導医を兼務。社会医学系指導医、日本産業衛生学会指導医、労働衛生コンサルタント。茨城産業保健総合支援センター・産業医学相談員、産業保健東洋医学研究会・代表世話人。著書・監修に「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン」(新興医学出版社)、「職場の健康がみえる」(株)メディックメディア)など。アルコール対策・両立支援・熱中症・高齢労働者対策を中心に講演多数。